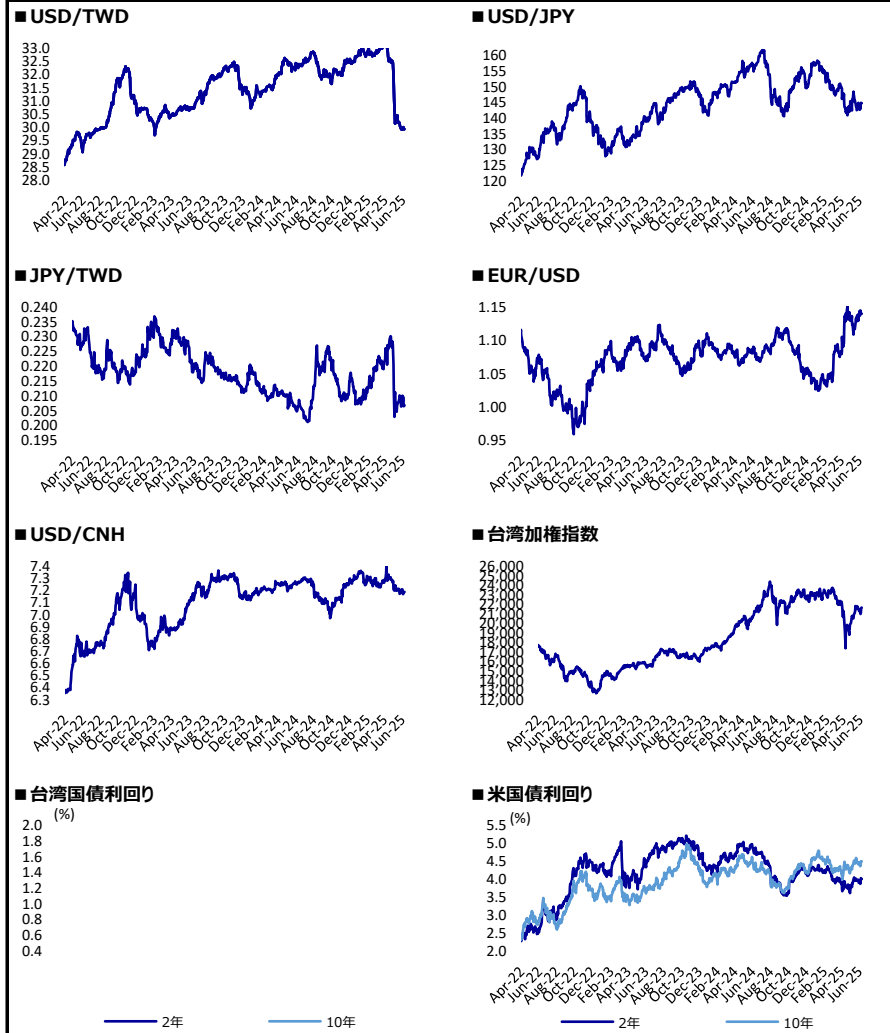


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初6/2は29.900でオープン後、週末に発表された台湾中銀の声明文では改めて実需に基づかない為替取引を取り締まる姿勢を出したことに加え、外資による台湾株売りの海外送金も入り、ドルは一時30.036まで上昇。6/3、外資や輸入業者のドル買いが下値を支えたものの、30価格近辺では輸出企業のドル売り注文が待ち構えているため、ドルはやや上値重い展開。6/4は、輸出企業のドル売りに加え、外資による資金流入が台湾ドル買いを加速したため、ドルは一時29.933まで下落。6/5は、海外市場のドル安につられ、ドル売り優勢展開となり、一時29.850まで下落したが、台湾当局のポジション調整で、ドルの下値をサポート。6/6は、29.900でオープン後、方向感の乏しい展開が続く、横ばい水準を上下に変動する状態が続いた。最終的には前週比0.01%ドル高台湾ドル安の29.931で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は603.9億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は続伸。週初6/2は144.17でオープン後、米中関係悪化や鉄鋼・アルミ関税引き上げへの警戒感から、終始上値重い展開。欧米時間では、5月米ISM製造業が小幅悪化したこともあり、ドルは引き続き軟調に推移。6/3は、日10年債入札は好調な結果となり、超長期債利回りの低下に伴い、円は143円近辺まで下落。欧米時間では、米4月求人件数の上振れによる米金利上昇を受けドルは144円前後まで買い戻された。6/4は、日銀がQT鈍化検討の報道が流れたものの、144円前後で底堅く推移。欧米時間では、軟調な米5月ADP雇用統計などの経済指標を受け、米金利低下に伴いドル円も142円台後半に反落。6/5は、米新規失業保険申請件数が24.7万件と24年10月以来の高水準となるなど、米経済指標はやや軟調。また、ECB/ハト派姿勢の後退もあり、米債利回りの上昇に伴い、ドルは143円台後半まで回復。6/6は、前日の米中首脳会談を受けたリスクオンムードが継続すると、ドル円は一方に水準を切り上げた。その後も底堅く推移する展開が続くと、一時144.06まで上昇。最終的には前週比0.58%ドル高円安の144.87で先週の取引を終了。

■ USD/TWD 予想レンジ：29.700-30.100
今週のドル/台湾ドルは上値の重い推移を予想。重要な経済指標やイベントを控え、やや方向感の出にくい環境となるが、ドル資産離れの動きが続く限り、ドルの戻り売り姿勢を維持。

■ USD/JPY 予想レンジ：142.50-146.00
今週のドル/円は揉み合い推移を見込む。米財政状況の悪化やトランプ政権による政策の不確実性がドル資産の魅力を減退させ、引続きドルは上値重い展開を予想。

今週の予定

6/9 (MON)	日4月国際収支・貿易収支/Q1 GDP、台湾5月貿易収支
6/10 (TUE)	
6/11 (WED)	日5月国内企業物価指数、米5月CPI
6/12 (THU)	米5月PPI
6/13 (FRI)	

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。